



鶴嶺中学校だより



学校だより NO1
 令和6年4月9日
 校長 阿部 知宏

令和6年度のスタートです。

鶴嶺中学校4年目を迎えました校長の阿部と申します。昨日、令和6年度の着任式・始業式・入学式を無事終えることができました。

今年度は247名（通常級242名と支援級（I組）5名）の新生を迎えました。生徒は学校の命であり学校の主人公です。生徒一人ひとりが自分の力を信じ、自信をもって活動できる環境を作っていきたいと考えております。そのためには私たち教職員は、生徒の人権を尊重し、生徒の立場にたって生徒と関わりながら支援をすることが求められます。また、生徒の皆さんが前向きな気持ちで物事に挑戦するためには、ご家庭での教育や環境も大切になります。生徒を中心に私たち教職員と保護者の皆様が同じ方向を向いて、教育活動を進めていければと思います。今年度も保護者の皆様のご理解とご協力をお願いします。

令和6年度の着任者の紹介です。（敬称省略）

氏名・職・教科等	前任校等
瀬口 学 教頭	茅ヶ崎市立梅田中学校
芳賀 郁海 教諭・理科	新任
内藤 基成 教諭・数学	茅ヶ崎市立萩園中学校
柳原 美保子 非常勤講師・数学	茅ヶ崎市立萩園中学校
中村 一生 拠点校指導教員	茅ヶ崎市立円蔵・西浜・萩園中学校
一星 光利 拠点校指導教員	茅ヶ崎市立浜須賀中学校
紫藤 隆 ふれあい補助員	茅ヶ崎市立松林中学校

始業式・入学式：進級並びに入学おめでとうございます。

始業式や入学式では「生徒の皆さん一人ひとりを大切にしたい」「悩んだり困ったりしたことがあったら必ず誰かに相談してほしい」「お互いの違いを認め合ってほしい」という私の思いを話しました。また、新生の保護者の皆様には、「子どもの権利条約」4項目や大人も子どもも人として対等であり、その上で、経験を積んだ年上の私たち大人の役割は、子どもたちの未来がより良いものになるよう、その経験から学んだ「知恵」や「生き方」のヒントを与えることだとの考えもお伝えしました。

この様に大人の考えを押し付けるのではなく、本人に考えさせ、最終的な判断や決定は子どもたちにゆだねるべきと考えます。ただし、中学生はまだまだ大人ではありませんから、時に指導や厳しさも必要です。だからこそ、私たちの大人は、「子どもの権利」を常に意識しながら子どもたちに接することを忘れてはならないのだと思うのです。

I組（特別支援級）は3学級、新1年生は7学級、2,3年生は6学級です。

令和6年度の新生は247名で、全校生徒は726名となり昨年度より30名程増え茅ヶ崎市内で恐らく一番人数の多い中学校となるのだと思います。生徒の皆さんの人数が多いということは、交流する人も多くなるとともに、自分を磨く機会がたくさんあることにつながります。是非とも鶴嶺中学校の環境の中で多くの友人を作って欲しいと思います。



一方で、施設的に生徒の皆さんが学習したり部活動で活動したりする場所が足りない等の課題もあります。

令和6年度から「コミュニティ・スクール」実践校となります。

以前にもご連絡しましたが、令和6年度から本校も学校運営協議会制度（コミュニティ・スクール）を取り入れます。この制度は学校と地域住民等が力を合わせて学校の運営に取り組むことが可能となる「地域とともにある学校」への転換を図るための有効な仕組みです。法律（地教行法第47条の5）に基づいて教育委員会が学校に設置する学校運営協議会で学校の在り方などを協議します。

コミュニティ・スクール（学校運営協議会）のメンバーは、昨年度までの学校評議員の5名と校長・教頭に新たに鶴嶺公民館館長と保護者（元保護者1名を含む）2名、教員2名を加えた計12名です。

【令和年度 鶴嶺中学校の教育活動等の重点目標】 **(案)**

1. 生徒の自己肯定感を高める教育環境の整備

2. 生徒の尊厳の尊重（人権）

始業式・入学式でも話しました。

「児童の権利に関する条約」＝「子どもの権利条約」4つの原則

- * 生命、生存および発達に対する権利（命を守られ成長できること）→「生徒指導・支援」
- * 子どもの意見の尊重（意見を表明し参加できること）→「生徒指導・支援」
- * 子どもの最善の利益（子どもにとって最もよいこと）→「生徒に不利にならない対応・判断」
- * 差別の禁止（差別のないこと）すべての子どもは、子ども自身や親の人種や国籍、性、意見、障がい、経済状況などいかなる理由でも差別されず、条約の定めるすべての権利が保障される。→「多様性」

3. 心の教育（命・多様性（LGBTQ等））の承認

4. 確かな学び（SDG s）

【令和6年度 もう一つの重点目標】

最も大切な教育環境は「元気な先生」＝教職員の心と身体の健康

令和6年度の第1の重点目標は、昨年度に引き続き「1. 生徒の自己肯定感を高める教育環境整備」です。鶴嶺中生の多くは、明るく元気に学校生活を送っていますが、だからと言って必ずしもその姿と心に秘めている気持ちが一貫しているとは限りません。今年度もこの点を1つの大きな課題と捉えて、今まで以上に、全ての教育活動を通じて第1の重点目標を意識した教育活動を進めていきたいと考えております。

因みに、ここ3年間の「生徒意識調査結果」や3年生で実施される「全国学習状況調査」における「生活アンケート」及び「学校評価アンケート」結果からは、年々、生徒の心の傾向は良くなってきています。

また、重点目標として、教える側の教職員の心と身体の健康（教職員の働き方改革）も教育活動においてはとても大切です。なぜなら、生徒の皆さんと接する先生方の心と身体の健康が不安定では、どんなに授業研究や研修を重ねても、生徒の皆さんに良い教育を提供することができないからです。ですから、この点につきましても「学校運営協議会」等でも話題にし、保護者の皆様のご理解とご協力をお願いしたいと考えます。